

## 7月7日 催涙雨

今日は七夕。織姫と彦星が、天帝から年に一度、会うことを許された日である。この日に雨が降ると天の川の水かさが増して、二人は会えなくなる。そのとき二人が流す涙になぞらえて、七夕に降る雨を催涙雨と呼ぶようになった。と、くだんのA先生が教えてくれた。A先生はニコニコしながら続けて言った。「その前日に降る雨を洗車雨といって、彦星が織姫に会いに行くのに使う牛車を洗うそうです。洗車っていうとなんか現代的で風情がないですよね」。A先生と話していると、せっかくのロマンティックな気分も、猥雑な現実に戻されてしまう。

明治になって廃止されたが、江戸時代には公的な行事として“五節句”が定められていた。現在でも年中行事として、1月7日（人日・七草）、3月3日（上巳・桃）、5月5日（端午・菖蒲）、7月7日（七夕・竹）、9月9日（重陽・菊）に行われる様々な風習が残っているが、別格扱いされている1月1日（元日）も含めて、五節句はすべて奇数の日に設定されている。これは奇数を陽、偶数を陰と考える陰陽五行説からきており、奇数同士が重なると偶数、すなわち陰となるため、その邪気を払うという意味で五節句が設定された。

九州では今日も線状降水帯がかかって大雨になるという。今年の七夕は、これ以上被災された方々が涙を流さなくて済むように、天帝に祈るばかりである。

